

ERIC 通信 第 16 号

2003 年 10 月 25 日発行

これからの ERIC —ビジョンとデザイン—

事務局長 角田 尚子

今年、プログラム提供部、テキスト普及部、そしてリソース開発部の 3 本柱の担当者が明確になり、また、小さな組織であることを活かして「オール ERIC プロジェクト体制」(Whole ERIC Approach) で今後の活動を推進していくこともビジョンとして共有されました。

そして、来年、ERIC は設立 15 周年を迎えます。5 年目で事務局長が交替し、主催研修をたちあげ、10 年目で NPO 法人になり、指導者育成に特化するようになりました。その時々には表現や焦点は違っていますが、創立以来変わらない ERIC の使命は、学びが先行する社会、ていねいに破壊し、ていねいに創り上げていく社会、人間を育て育っていく人間によって育てられる社会、そんな社会にふさわしい教え方・学び方を広めることです。これまで「テキスト」「研修」「資料および情報」「組織＝スタッフや研修員、研修生・インターン、運営委員や事務局長」などのリソースが推進のツールとなってきました。今後はそれらの基盤を充実させると共に、さらに「未来型」にリデザインしていきたいと思っています。さらなる発展のためには、これまでの 15 年でリーチしてきた 10 万人の人々の記憶に残っているだけでなく、求めるものとして認識してもらう必要があります。提供の仕方だけでなく、わたしたちが何を提供できるのか、そしてそれが何につながるのかを明確に示していくことも必要でしょう。

「わかりやすい」もの、受け入れられやすいものは、過去のもの、「わかりにくい」もの、なじみにくいものは未知のもの、いまだ実現していないもの。新たなものをどのようにわかりやすく提供していくかという、矛盾する課題を、ERIC は果たしてきましたし、これからも果たしていこうと思っています。来年の ERIC にご期待ください。そして、ぜひ、期待をお寄せください。時代の中で、共に創り上げていきたい ERIC なのです。

WHAT'S NEW ERIC のいま、最新情報！

■ 2年間「コース(仮)」構想に向けて

ERIC では、ファシリテーター・指導者のための 2 年間の「コース」の創設を目標としています。現在、ERIC がこれまで行ってきた指導者育成事業の評価を行い、同時に今後の計画づくりとして、事業と組織の包括的なデザインを急ピッチですすめています。ファシリテーターが、テーマについて学びたい内容（人権、環境、持続可能な開発、平和など）と、身につけたい方法論（気づきから行動へプログラム、築きのための分析的手法、社会的合意形成の方法論など）を、どのような「カリキュラム」で学び習熟するか、目下全力で検討中です！

みなさんは、ファシリテーター・指導者のための「コース」と聞いてどのような期待やイメージをもちますか？ ERIC の「コース」構想は、他の団体との連帯、大学との協働などによる取り組みも考えています。ぜひ、私たちとともに目指す教育、社会づくりをすすめてみましょう！

■ 新たな発見、学びが続々

主催研修やその他の取り組みで、新たな学びが続々とうみだされています。ERIC が「ワークショップ(工房)」そのものなのです。新たな概念や枠組みを発見することで、これまでの思考や発想を別の視点でみることができ、また新たな目標がうまれます。以下に共有された学びを一部紹介します。詳しくは本誌 2 ページ目の研修報告やホームページでもご覧いただけます。

●「民主的スキル」から「エコロジカルスキル」へ。

民主的で公正な人間関係・社会のために 1 人ひとりが身につけたい「民主的スキル」。しかし、持続可能な社会／開発／発展／未来のためには、「人」「社会」のためだけでなく、「自然」も視野に入れた「エコロジカルスキル」を身につけることが必要です。そうしたスキルは、目指す目標に向けて行っていく取り組みのプロセスで身につけていくことができます。

●新しい研修のスタイル実施「みんなでつくるファシリテーター養成講座」

参加者が持つ期待や課題を共有して、全員でプログラムを構成することから研修を始め、プログラムを進めるファシリテーターも加者が分担してつとめます。従来型に比べ、主体的に協力する風土が生まれ、ファシリテーター実践の機会も大幅に増えました。

ERIC 主催研修 2002「国際理解 as learning community」中間報告

多様な参加者とともに作りあげる教育の未来像

国際理解教育で扱いたい 6 本の柱、それが現在 ERIC のファシリテーター養成講座の各テーマ「国際理解」「持続可能な社会・開発」「環境(PLT)」「人権」「対立」「教育力」です。

2003 年度は分野別テーマと以下のファシリテーター・スキルの 3 つのステップを組み合わせ構成しました。

- ・「プログラム・ファシリテーター」: アクティビティを中心にして、2～3時間のまとまりのある時間を進行できる。
- ・「ワークショップ・ファシリテーター」: みんなでともに課題を考えるために分析の枠組みを効果的に提示・活用することができる
- ・「プロセス・ファシリテーター」: 参加を市民社会形成のプロセスとしてとらえ、さまざまなセクターの対等な参加による社会的合意形成および行動を進めることができる。

10 月までに、この 2 つのステップを終了しました。各回の報告は ERIC レッスンバンクに順次収録する予定です。ここでは研修を通して、参加者とともに新しく創り上げてきたことに焦点を当ててご紹介します。

◆ エコロジカル・スキル

～課題に取り組むことで身につくスキル～

2 日間、3 日間の研修をともにしていると、学びをどう実践に活かすか、それぞれのストーリーが参加者にも ERIC スタッフにもみえてきます。各研修の最後には、自分自身が課題だと思いついたことを互いにアドバイスしあうという時間をとります。

昨年の研修では、「民主的スキル」という概念を共有しました。ERIC では自己理解、相互理解、共通理解の 3 ステップに構造化し、ともに伸ばしあっていけるスキルであると整理しました。「エコロジカル・スキル」とは、民主的スキルが人や社会の関係に焦点を当てているのに対し、より自然に目を向けているところがポイントといえます。自分自身が「解決したい」と思う課題に取り組むプロセスの中で身につけていくこと、それを共通の言葉「エコロジカル・スキル」と呼ぶことで、興味関心、分野の違い、個別に進められてきた取り組みが、一つのビジョンの元につながっていけるのではないのでしょうか。

◆ ともにプロセスをつくる

ファシリテーターにとって、参加者のニーズをふまえて、

研修プロセスをつくり、修正しながら進めて行くことは、重要なスキルの一つです。ファシリテーター養成講座なのだから、参加者といっしょにそれをやってみよう、ということを実践したのが 10 月の「人権教育ファシリテーター養成講座」でした。

最初のセッションではいねいに期待を共有し、3 日間のセッション割りふりをみんなで作って、役割分担してプログラムを創り、ファシリテーターをやりました。ファシリテーター養成講座は、ERIC が持っているものを「教える」のではなく、ともにプロセスをつくりあげていく過程での学びが重要だ、ということを昨年の 3 月の研修から試行してきましたが、今回は初めて「さて、何をしたいですか」という問いから始まりました。

たくさんのファシリテーションをみることでできたこと、全体を通して考える視点を持つことができたこと、緊張したけどやりきったという達成感があったことなど、いろいろなふりかえりと成果がありました。

ERIC ビジョンである指導者養成コースを確立していく上で、一つひとつの積み上げが、コースにとって重要です。今回のような学び方をどのように位置づけていけるか、このスタイルで改善されたことと課題を明確にし、解決していくことが、今後のよりよいファシリテーションを行う上で必要になっていきます。

◆ プロセス・ファシリテーター研修に向けて

これからのステップ 3 の二つの研修では、ともに社会的合意形成および行動何かを進めていくプロセスに焦点を当てて、コミュニティで推進していけるファシリテーター像を探ります。

<ERIC の主催研修>

- ・「持続可能な社会/開発を目指して」プロセス・ファシリテーター養成講座 2004 年 1 月 10 日(土)～12 日(祝)
- ・「TEST (Teachers' Effective Skill Training)」教育力向上講座 2004 年 3 月 20 日(土)～22 日(月)

<地域との共同企画 実践編>

11 月 23-24 日には熊本で、12 月には山口で地域のファシリテーターともに実践編も開催します。

ともに、教育のビジョンを作っていきます！

実践編を共催してくださる各地のファシリテーター、コミュニティからの応募をお待ちしています。

- 地域の課題解決のためのワークショップ、アクティビティ開発
- ファシリテーション実践および、実践報告会
- 地域の NPO 訪問および学校訪問など

プログラム提供部 足立まで、ご相談ください。

都立竹台高校「国際理解」のとりくみから・・・(その3)

コーディネーター 木野

ERIC が都立竹台高校の2年生選択科目「国際理解」を市民講師として担当して4年め、今年度は昨年度に引きつづき「学校と市民講師の協働」をプロジェクト目標に、教員2人、ERIC2人のチーム体制で、計画、実施、評価、改善のプロセスを共有しながら参加型の授業づくりに取り組んでいます。

■カリキュラム

一年を通じてやっていきたいのは、人類がよりよい社会をつくるためにさまざまな努力をしてきて、全体には随分よくなってきているのだという認識を持つこと。そこから社会は働きかけに応じて変わってゆくと、それをやるのはわたしたち一人ひとりだという自分、仲間、社会に対する信頼とそれを支えるスキルを育てることです。1学期はテーマを「人類と戦争」とし、イラク戦争という具体例を取り上げ、調べ学習を中心に行いました。2学期は、「平和の構築に向けて」とし、世界の現状把握を、気づきのアクティビティを用いて、地球規模の課題の解決のために共有しておきたい原理・原則や概念を学ぶ方法で進めています。

■「学びのコミュニティ」づくりのために

選択科目「国際理解」は6クラスからの混合28名です。生徒同士も講師にとっても週1回1コマしか出会わない仲間なので、協力して学びあえる「学びのコミュニティ」にどれだけ早くなれるかが課題となります。目標の共有とグループ活動の時間の確保のために、今年度は昨年以上に「視覚化」を試みています。毎年行っている、毎時のスキル目標の掲示、みんなでつくった話し合いのルール、当日のプログラムとねらいの他、作業手順や大切なキーワードなどはA3サイズの紙に大きく書いて目に見える形で手早く、確実に伝えるようにしています。

また、個人ファイルをつくり、自分で書いたワークシートや他の生徒の意見を共有するための成果物のまとめを閉じてゆき、書く宿題があった際に提出してもらおうようにしています。自分自身の学びを蓄積してゆくために導入しましたが、授業の発表の際にはとりあげられなかった意見や考えに接し、講師側の生徒理解に役立っています。

■協働の課題

今年度関わってくださる教員が2人になったことで、授業づくりの際に、テーマに対する意見が多様に出され、講師の内容理解が深まる、進め方のバリエーションが増える他、他の先生方への働きかけが多くなり、必要なときに協力が得やすくなったと感じています。一方、一学期を例にとると、ねらいを合意して進めているつもりでも、それぞれが強調したい部分が異なっていて、結果的にはねらいが絞り込めていなかったという反省もあります。2学期は、学期はじめに、そのテーマで伝えたいことを各自が文章にして共有し、どの回でそれを活かしてゆけるか考えながら進めています。3学期は自分が課題だと考えていることにどう関わっていくかを考える予定です。

(竹台高校での実施内容はレッスンバンクに収録しています。別紙レッスンバンクをご覧ください。)

ERICが進める「まちづくり」その②

事務局 渡辺

住民参加で行う 公園の活用推進事業 (東京都足立区からの委託調査事業)

「公園活用のビジョンってどんなもの?」「活用推進の課題ってなんだろう?」「みんなのアイデアを実際の公園でためしてみようよ!」。これまで区民・行政ともに時間をかけじっくりすすめてきた「区民主体の公園活用推進」を目指した調査事業も、今年度で終わります。昨年度末、「区民の方々が取り組み推進の主導を担うまではもう少し時間がかかる・・・」と事務局が考えていた矢先に、なんと区民の方々が自ら「公園おもちゃ箱の会」なる組織(ネットワーク)を立ち上げたという連絡が入りました!これまで、共通理解をつくり、協力して公園活用実践を行ってきたことが、「ちから」となったのですねえ・・・

とはいえ事務局は今後、「おもちゃ箱の会」の方々が行政との協働で取り組みを続けるための「ガイドライン」の作成・合意や、これまでの取り組みを説明責任として一般にフィードバックすることなど、まだいくつかの課題は残っています。

住民参加事業推進のプロセス、行政と市民の協働のかたち、ガイドラインづくりのあり方、などERICはこの事業で区民の方々と何をうみ出し、何を学んできたのでしょうか、整理・評価が必要です。今後のレッスンバンクで紹介します。

「公園まるごとおもちゃ箱パート3」開催!

- とき:11月2日(日)
※雨天の場合は3日に順延
- 場所:足立区 元洲江公園
- 内容:
 - ・「どんぐりで工作しよう」
 - ・「ポニーと遊ぼう!」
 - ・「木といっしょに遊ぼう!」
 - ・「ゲームで木々!」、など
- 主催:「公園おもちゃ箱の会」
- 共催:足立区

■ 広げる、深める、創り出す！「リソース開発部」始動

ERIC は 2004 年で創立 15 年を迎えます。2001 年度より、参加型による指導者研修やワークショップ、テキスト・教材の提供などを、それぞれ「プログラム提供部」「テキスト普及部」の 2 部に担当がつき取り組みを進めてきましたが、2003 年度 7 月よりさらに、「リソース開発部」にも担当が配置され、3 部体制とすることができました。

ERIC が今後目標としている指導者・ファシリテーターのための 2 年間の「コース」の確立に向けて、リソース開発部では ERIC の「リソース開発エンジン」となり、みなさんとともに学びや課題を共有し進めていきたいと考えています。

ファシリテーターとともに学びを広め、深め、「参加の文化」をつくる！これからもみなさんとの取り組みが楽しみです。

プログラム提供部

ファシリテーターラーニングネットワーク
リソース開発、推進のエンジン！

テキスト普及部

リソース開発部

プロジェクト・インターン募集

ERIC で取り組んでいるプロジェクトを共に担い、推進していただけるインターンを募集しています。ERIC のプロジェクトは、すべて「参加型」の手法を活かして進めています。インターンとして関わることで、効果的なプロジェクト運営のノウハウが身につきます。また、自分たちで ERIC のリソースを活かしたプロジェクトを立ち上げることも可能です。時期や期間、条件などは個別相談に応じます。ぜひご連絡ください！

【ERIC のインターンでこんなことが学べる！】

- 参加型によるプロジェクトの推進
- 研修プログラムの立案・実施
- ファシリテーターのスキル

【こんなプロジェクトをすすめよう！】

- テキストや教材・レッスン・バンクなど出版物の作成
- 教材や資料、情報の整理、管理システムづくり
- パブリックインボルブメント(広報)の推進、などなど

現在インターン制度で進めている「Project BE」から、来年の ERIC が生まれます！ It's real!

■ 資料室を一般公開しています。

・アメリカ、カナダ、オーストラリア、イギリスなどから集めた英文資料 約 1000 点・日本語文献約 2000 点以上

・参加型教材関連の図書や教材 ・ERIC の出版物 ・国内外団体の出版物・ニュースレターなど多数

●閲覧日：月、火、木、金 13 時～18 時(要予約) 料金：500 円(ERIC テキスト・教材のみ閲覧の場合は無料)

カリキュラムの開発は、すべての ERIC の活動に深く関わって意識をされているので、有機的に開発されていきます。資料室にある蔵書などのほか、当センターのファシリテーターや研究員が使用しているリソースも一般の閲覧に提供しています。

総合学習を進める「カリキュラム開発室」として、主体的な研究の場としてお役立てください。

■ メールマガジン「ERIC NEWS」を配信しています。

現在不定期ですがメールマガジンを発行しています(年間約 30 通)。ERIC の活動内容や報告、自由に参加できるワークショップ情報などの詳細を、リアルタイムでお届けしています。ご希望の方は、ホームページより「ERIC 電子メールマガジン登録フォーム」をご利用ください。また、E-mail アドレスをお知らせいただければ登録いたします。(登録された個人情報は、法律に従い非公開でメールマガジン配布以外に使用されません)

■ この ERIC 通信は無料でお届けしています。(年 2 回)

主催研修予定、新規に開発されたレッスン・バンク、書籍情報、など年間の ERIC の活動を集約してファイルできます。お友達に郵送ご希望の方をお知らせください。

特定非営利活動法人 国際理解教育センター (ERIC)

〒114-0013 東京都北区東田端 1-14-1 岩瀬ビル

電話：03-3800-9415 FAX：03-3800-9414

Eメール：eric-net@try-net.or.jp

ホームページ：<http://www.try-net.or.jp/~eric-net/>

